

令和8年度

伊座利小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 個に応じた分かる授業の創造と実践
- 基礎・基本の徹底
- 主体的・対話的に学ぶ問題解決的な学習の充実

校長

藤崎 知幸

学力向上推進員

竹岡 玲

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○個に応じた指導により、基礎的な知識・技能は概ね定着してきている。 ●語彙力の不足や読解力の弱さがあり、特に説明文の内容理解に個人差が大きい。 ●文章を書く際に主述のねじれが見られたり、書き出して戸惑ったりする児童がいる。	・精読や意味調べ、語彙リストの活用を通じ、言葉の意味を正しく理解して語彙を増やすことができる。 ・文構造(主語・述語)を意識し、「はじめ・中・終わり」の構成を整えて、自分の考えを正確に書くことができる。	・日記指導やノート指導などを充実させ、書く機会を増やす。 ・様々な機会を捉え言語活動を取り入れ、書いたり話したりする表現活動の充実を図る。 ・学校の読書環境を生かし、教師や児童による読み聞かせをするなど、読書に興味を持たせる。また、短文からの段階的な指導を行い、正しく文を読むことができるようにして語彙力・読解力を伸ばす。 ・音読や短文づくりを通して、正しい文章構造を意識して書く力を身に付けられるようにする。 ・こども新聞などを活用し、読む時間を設定したり、新聞感想を家庭学習にしたりして、活字に慣れさせ、短時間で内容を読み取る力や読解力を高める。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し手の顔を見て聞き、前の意見を受けて発言するなど、主体的な話し合いができるようになった。 ●意見を比較したり、自分の考えを深めたりする場面で、他者との違いに気づくことに課題がある。 ●会話や説明において主語が抜けたり、要点が曖昧になったりすることがある。	・友達の意見と自分の考えを照らし合わせ、共通点や相違点、良さに気づきながら考えを深めることができる。 ・伝えたいことを明確にし、主語や要点を意識して、相手に正確に伝わるように話したり書いたりできる。	・伝えたいことを明確にしてから話す・書く指導を積み重ね、言いやすいことを正確に表現できるようにする。 ・定期的に話し合い活動をし、他者の意見の良さや課題点を考え、自分の考えと照らし合わせる場面を増やす。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に真面目に取り組み、自ら課題を見つけて取り組もうとする姿が見られ始めている。 ●自主学習の進め方が十分に定着しておらず、特に苦手な課題への取り組みや内容の選択に個人差が大きい。 ●家庭環境や生活リズムの影響・本人の特性により、自分で見通しをもって学習を進めることに難しさを抱える児童がいる。	・自分の発達段階や興味・関心に応じて、自ら学習内容を選択し、計画的に取り組むことができる。 ・日々の振り返りを通じ、自分の成長や新たな課題に気づき、次の学習へつなげようとする意欲を持つことができる。	・発達段階に応じて自主学習への取り組み方を示し、興味や関心を引き出す働きかけを行う。 ・自分で学習内容を選べる場面を意図的に設け、主体的に取り組む姿勢を育てる。 ・日々の振り返りを通して、自分の成長や課題に気づく機会を増やす。			